「はないちもんめ」研究ノート

今　由佳里*

（2023 年 11 月 15 日　受理）

A Preliminary Study of the “Hanaichimonme” Traditional Children’s Play Song in Japan

KON Yukari

要約

「はないちもんめ」は、数人の子どもが 2 組に分かれて相対し、双方で歌問答をしながら、メンバーのやりとりをする日本の伝承遊びである。地域性や構成員の条件によってアレンジが加えられるこの遊びは、年齢を問わないコミュニケーションを可能にし、年上の子どもが年下の子どもの手を引いて遊びのルールを示したり、協調性や仲間意識を自然に育むものである。

日本の伝承的な遊び歌には、その土地の自然や文化、歴史、産物、生業等が反映され創りかえられながら伝播する特徴がある。「はないちもんめ」も同様の過程を経ており、同じ地域であっても世代によって異なる歌詞が歌われ、時代の流行に即した表現を子どもたちが敏感に感知し、取り入れていった経過が読み取れる。「はないちもんめ」は、手を繋いで一緒に歌うことで、自分の居場所があるという安心感や所属感、じゃんけんや引っぱり合いで勝負する際の仲間の応援で味わう一体感が、現代まで途切れることなく伝承されている理由のひとつであろう。

本稿は、全国的に流布され、地域によって多種多様なヴァリエーションが見られる「はないちもんめ」の歌問答と遊びに視点を置き、日本のわらべ歌伝播の特徴を探る予備的な研究ノートである。

キーワード：はないちもんめ、伝承遊び、わらべ歌、歌問答、子どもの民俗

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系　准教授

１．はじめに

「はないちもんめ[1]」は、数人の子どもが 2 組に分かれて相対し、双方で歌問答をしながら、メンバーのやりとりをする日本の伝承遊びである。平安時代の「比比丘女（ひふくめ）」に由来する「子とり鬼」の遊びから変化して発生したという来歴の説はあるが、口伝による子どもの遊び歌と言う性質からその判断は難しい。現在の形態の「はないちもんめ」は、明治末頃京都から各地に伝播したものと考えられている [2]。遊び歌として、現在でも日本各地で親しまれているが、各地域で歌詞や旋律、遊び方に相違が認められる。本稿では、「はないちもんめ」の全国的な伝播の状況を探るため、全 27 巻からなる『日本わらべ歌全集（柳原書店）』から、「はないちもんめ」の歌問答と遊び方を採集して比較表を作成する。なお『日本わらべ歌全集』では、宮城、秋田、福島、千葉、石川、神奈川、滋賀、徳島、広島、山口、鳥取、長崎、熊本、宮崎、沖縄の項には「はないちもんめ」の曲名が採録されていない。収集データーのレベルを統一するため、他の資料から引用して補完はせずに、本稿では対象から除外する[3]。伝承遊びという特性から、同県の中でも採録されているものと異なるものが多数存在するということ、さらに同地域によっても口伝による伝承のため、差異が認められるものが存在するということ、を前提として書き進めていく。

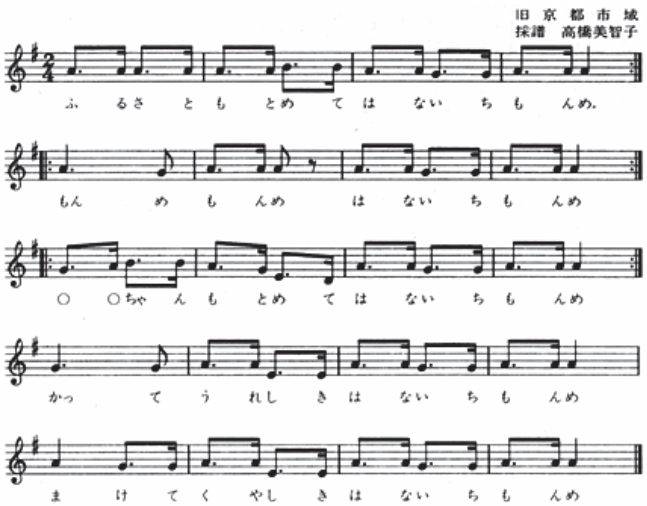
本稿は、全国的に流布し、地域によって多種多様なヴァリエーションが見られる「はないちもんめ」の伝承と伝播の過程を導き出す予備的な研究ノートである。

２．「はないちもんめ」の伝播

昭和 20 年代の初め頃から採譜されてきた『日本わらべ歌全集（柳原書店）』を見ると、北海道から鹿児島まで広範囲に「はないちもんめ」は採録されており、日本全国に流布していたことがわかる。しかし、子どもたちの口伝によるため、また様々な遊びや遊び歌が伝播の過程で混交したためか、各地で歌詞やメロディー、遊び方に差異が認められる。

発祥地とされる京都では「ふるさとまとめて　花いちもんめ　ふるさとまとめて　花いちもんめ　もんめ　もんめ　花いちもんめ　もんめ　もんめ　花いちもんめ　〇〇ちゃんまとめて　花いちもんめ　××ちゃんもとめて　花いちもんめ　勝ってうれしき　花いちもんめ　負けてくやしき　花いちもんめ」と採録されている。他県に目を移すと、伝承伝播する中で各地の方言や文化、他の遊び歌の要素が加わり、様々なヴァリエーショ

【譜例１　はないちもんめ（京都）[4]】



ンが見られる。例えば、青森では「勝ってうれしい　花いちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ　白砂糖かためて　花いちもんめ　黒砂糖かためて　花いちもんめ　ハナさんねらって　花いちもんめ　ミヨさんねらって　花いちもんめ（二人が前に出てジャンケン）　勝ってうれしい　花いちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ」と採録されている。一方、奈良では「勝ってうれしい　花いちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ　隣のおばさん　ちょっと来ておくれ　鬼がいるから　行かれない　布団かぶって　ちょっと来ておくれ　布団ないから　行かれない　バケツかぶって　ちょっと来ておくれ　バケツそこ抜け　行かれない　ぞうきんかぶって　ちょっと来ておくれ　ぞうきんビリビリ　行かれない　あの子がほしい　この子がほしい　相談しよう　そうしよう　太郎ちゃんがほしい　けい子ちゃんがほしい（ジャンケン）　勝ってうれしい　花いちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ」と歌問答が採録されている。また、筆者が居住する鹿児島では、「花いちもんめ　花いちもんめ　勝ってうれしい　花いちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ　あの子がほしい　あの子じゃわからん　花子さんがほしい　なんになって来るの　ちょうちょになっておいで（花子蝶々の真似をして勝組へいく）　勝ってうれしい　はないちもんめ　負けてくやしい　花いちもんめ」と蝶々の真似をする仕草が加わる。また『日本わらべ歌全集』には掲載されていないが、歌詞の中間に「あっかんべー」や「あかんべ　しろんべ　おせんべい　ちょうだい　あげない」「あかんべーのべーのへの河童」等とリズミカルに悪態をつく文言が付随され、互いに「あかんべい」や睨みあう仕草が加わる地区も特に県中部霧島を中心に多く見られる。勝負の方法は、じゃんけんの他に引っ張り合い、片足けんけん相撲が見られ、子どもたちの遊びの中から様々なヴァリエーションが生み出された伝統的かつ創造的な遊びと位置付けられるのではなかろうか。なお水戸などでは、組み分けは必ず《さくら》の歌で決めるとの文言も見つけられる。

３．《子捕ろ子捕ろ》《子買お子買お》《向ひのばばさん》《たんす長持》との関連

全国に伝承されている《はないちもんめ》は、どのような経緯で誕生したのであろうか。通説では昭和の初めに京都から伝播されたものと言われる。その来歴については諸説見られるが、平安時代の「比比丘女」に由来する説、古代の歌垣に由来する説がある。その他にも、縄跳び歌に由来しているという指摘も見られる。『日本わらべ歌全集』から《はないちもんめ》を分類する作業を行うと、①《子捕ろ子捕ろ》、②《子買お子買お》、③《向ひのばばさん》、④《たんす長持》の歌詞や遊び方、旋律の動きに関連性が認められるが、口伝による子どもの遊び歌と言う特質もあり、詳細は分からない。

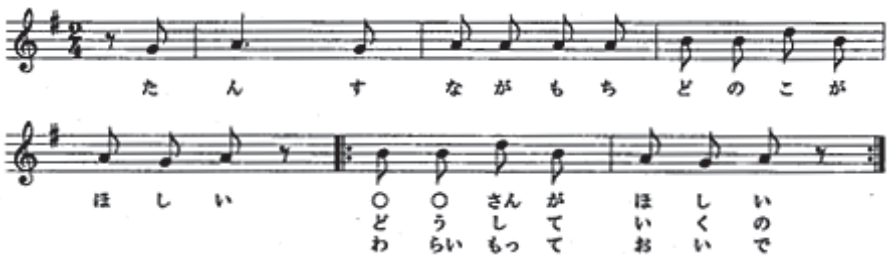
①比比丘女は、「地獄の獄卒が罪人の在家・出家の男女を捕らえようとするとき、地蔵が救おうとして獄卒と争うかたちから転じた地蔵講の法楽。源信の創案になるといい、また後の鬼ごっこの一つ『子とろ』のもとという」と『仏教大辞典』には記されている。また「子捕ろ」の遊びから発展されたのではないかと言われる鬼遊びの一種、②「子買お」は『日本大百科全書』の解説によると「遊びに入る前に親と鬼との間で一連の問答があるのが特徴」であり、文政７年（1824）の『風

俗問状答書』の奥州白川の答書の中にも「子買う子買う　子に何しんじょ　砂糖にまんじゅう　それは虫の大毒……」という問答体の唱え言が記され、これは江戸時代に商業が発達し、子どもの遊びにも物の商いの真似事をする遊びがみられるようになったから、とある。なお「子買お」で売るものは、雀、猫、お雛様、筍、おでん等変化に富んでおり、対象に因って問答の言葉も変化する。「子買お」について『日本国語大辞典』では、「子どもが売手と買手の二組に分かれて『子買お、子買お、どの子がほしいぞ、いっちのなかの上子（じょうこ）がほしい』などと唱えことばを掛け合いに言いながら相手をつかまえる遊び。江戸中期から盛んに行なわれた」ともあり、二組に分かれて問答する「はないちもんめ」の片鱗がうかがえる。なお「子買お」について、かつての日本における人買いや子どもの奉公の風習、現代より容易に行われていた養子縁組の名残が、子どもたちの遊び歌に影響をもたらしたのではないかという指摘もされている。

江戸後期の風俗史である『守貞漫稿（1853）』に描かれている鬼ごと遊び③「向ひのばばさん」は、「鬼が道路の真ん中にいて、他の者は2組に分かれ、道路をはさんで軒下に立つことから遊戯を始める。軒下に立つ2組は、京坂では『むかひのばばさんちやのみにごんせ』『おにがこおふてようさんじません』『そんならてつほうかたげてよつさつさ』と交互に歌う。この文句は江戸では『むかうのおばさんちょとおいで』『おにがこわくゆかれません』『そんならむかひにまいりましょ』と言うとある。そして最後の文句を言い終わったとたんに全員走り出し、向こうの軒下に移るのを『鬼』がとらえるという遊びである」[5]と解説されている。各県の「はないちもんめ」の歌詞を見ると、岩手や東京、奈良、福岡ほか多くの地域で、「となりのおばさん　ちょっときておくれ　鬼が怖くていかれない」に類似する歌詞が見受けられ、その幅広い影響がうかがえる。

「はないちもんめ」とほぼ同時代に、同じく京都から歌い始められたという④「たんす長持」は、「たんす長持　どの子がほしい　○○さんがほしい　どうしていくの　笑いもっておいで」との歌詞で歌われる。はないちもんめと異なりじゃんけんや引っ張り合い等の勝負はなく、相手の組からほしいと思う子を一人ずつ交換する子もらい遊びである。もらわれていく子どもは「お嫁さんになっておいで」「蝶々でおいで」「お馬に乗っておいで」「笑いをもっておいで」「けんけんしておいで」等様々な物真似やジェスチャーを指定されて交代する。これは、かつて人買いがその子どもの才能や能力を値踏みしたことに因んで発生したという説がある。

【 譜例２　たんす長持（京都）】



本稿では「はないちもんめ」の起源を探ることを目的とはしていないため言及は避けるが、「比比丘女」に関係する「子捕ろ」と、その「子捕ろ」から発展された「子買お」の遊びを経て、近代の「はないちもんめ」に派生したという仮説がたてられるのではなかろうか。「子捕ろ」は貰われる子を決める“勝負ごと”、「子買お」は買い手と売り手の“知恵を利かせた問答”を楽しむものであったが、「はないちもんめ」には、これら両者の要素が含まれている。

４．各地における「歌問答・遊び方」のヴァリエーション

以下表１は、『日本わらべ歌全集（柳原書店）』全27巻から作成した「『はないちもんめ』歌問答・遊び方の比較表」である。本項では、日本における伝播の状況を探るため、《はないちもんめ》のタイトルが冠されている楽曲のみを取り上げた。この手順を踏むことによって、その歴史的経緯から極めて類似した歌詞や旋律、遊びを持つ楽曲を選別し、一定の基準で抽出することを可能にする。

表１　「はないちもんめ」歌問答・遊び方の比較表
（『日本わらべ歌全集（柳原書店）』全27巻より抜粋引用して筆者作成）

整理番号	都道府県名（市町村名）	伝承者（ ）内は生年採譜者	歌問答	勝負の方法	遊び方
1	北海道（江別市西野幌）	野幌小学校児童（不明）松本達雄 松本良一	植えてうれしい　花いちもんめ 勝ってうれしい　花いちもんめ 負けてくやしい　花いちもんめ 黒砂糖（くろさと）まるめて　花いちもんめ ミヨさんとりたい　花いちもんめ ハナさあん	じゃんけん	二組に分かれ、横一列に向かい合って手をつなぐ。うたいながら一組が前進、他の組は後退する。歌が終わると指名された者同士が前に出てジャンケンをし、負けた者がもらわれていく。遊び終わりに人数の多い組が勝ち。
2	青森（弘前市代官町）	工藤つね（明治26年）工藤健一	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「白砂糖（さど）かためて　花いちもんめ」 B「黒砂糖（さど）かためて　花いちもんめ」 （両組お互いに集まって誰をとるか相談） A「ハナさんねらって　花いちもんめ」 B「ミヨさんねらって　花いちもんめ」 （二人が前に出てジャンケン） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん引っ張り合い	二組に分かれ、横一列で向かい合い手をつなぐ。この歌をうたいながら一組は前進、それにつれて他の組は後退する。先に前進する組は、あらかじめジャンケンできめておく。指名された二人が前に出て、ジャンケンや引っ張りあいをし、負けた子が相手の組へもらわれていく。
	青森地方	―	【類歌】勝って嬉しい花一匁、負けて悔しい花一匁、隣の小母さん ちょっときておくれ、鬼がこわくて行かれません、頭かぶってちょっと来ておくれ、赤鬼こわい、どの子が欲しい、あなたが欲しい、あなたじゃわからん、〇〇ちゃんが欲しい、〇〇ちゃんが欲しい。	不明	記載なし
	（西津軽郡木造町）	―	【類歌】［全員］さくらさくら弥生の空は、見渡す限り、いざやいざや花ざかり、［A］白砂糖（「ふるさと」）もとめて花いちもんめ、［B］黒砂糖（「ふるさと」）もとめて花いちもんめ、［A］〇〇さん取りたい花いちもんめ、［B］××さん取りたい花いちもんめ、［A］お馬でやろか、お駕籠でやろか、［B］お馬も危ない、お駕籠も危ない、［A］今のはやりの電車でやろか、［B］それなら買う、〇〇さん買う。	不明	記載なし
	（下北郡大畑町）	浜田この（明治41年）工藤健一	ハナちゃん欲しいよ　花いちもんめ マサちゃん欲しいよ　花いちもんめ	じゃんけん引っ張り合い	上記弘前市代官町と同じ方法で遊ぶが、単に欲しい子の名前を呼んでもらう。

3	岩手 （盛岡市加賀野）	本宮中学校 生徒 （不明） 千葉瑞夫	A「隣のおばさん　ちょいと来ておくれ」 B「鬼がこわくて　行かれない」 A「お釜かぶって　ちょいと来ておくれ」 B「それでもこわくて　行かれない」 A「どれどれ　どの子がほしいのか」 B「あの子がほしい」 A「あの子じゃわからん」 B「この子がほしい」 A「この子じゃわからん」 B「きめましょう」 A「ミヨちゃんがほしい」 B「ハナちゃんがほしい」 AB「ジャンケンポン」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	二組がそれぞれ一列横隊になり手をつなぎ向かい合う。両組が交互に一、二、三と進んでホップ、一、二、三と後退してホップを繰り返す。本来は単純な「花いちもんめ」に、昔からあった別の遊びの歌を前半につなげて歌問答の数を増やし、遊びを盛り上げる工夫をしている。互いに相手方のもらいたい子を指名し、指名された子同士がジャンケンして、負けた子は相手の組にもらわれていく。一方の組が全員とられてしまうか、遊びをやめたときの人数で勝負が決まるが、勝ち負けはあまり意識しないで楽しんでいるのが通例。
	（一関市）	不明 （不明） 三浦司	A「セッセッセときて　花いちもんめ」 B「隣のみよちゃん　ちょいと来ておくれ」 A「鬼がこわくて　行かれない」 B「お釜をかぶって　ちょいと来ておくれ」 A「それでもこわくて　行かれない」 B「どれどれ　どの子がほしいのか」 A「あの子がほしい」 B「あの子じゃわからん」 A「この子がほしい」 B「この子じゃわからん」 AB「きめましょう」 A「花子ちゃんがほしい」 B「ちよちゃんがほしい」 AB「ジャンケンポン」 勝組「勝ったとうれしい　花いちもんめ」 負組「負けたとくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	記載なし
4	山形 （米沢市）	県立米沢東 高等学校生徒 （不明） 坂野洋子	AB「花いちもんめ」 A「隣のあやちゃんちょっとおいで」 B「隣のみよちゃんちょっとおいで」 AB「ジャンケンポン」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「花たばまとめて(1)　花いちもんめ」 B「鼻くそまるめて　花いちもんめ」 〔注〕（1）「ふるさとまとめて」（山形市）とも。	じゃんけん	子もらい遊びの中で、もっともよく歌われるもので、女の子の集団遊びとして代表的なものである。A・B同人数で二組にわかれて横隊となり、向かい合って掛け合いで歌う。最初のジャンケンで勝った方がうたいながら前進すると、その分だけ相手は後退する。そして指名された二人がでてジャンケンをし、負けたものがもらわれていき、再びうたいながら前進後退をくり返す。終わったとき人数の多い組を勝ちとする。よく遊ばれるところから、遊びの形がいろいろ変形しているものが多い。
	（西置賜郡白鷹町）	―	［類歌］白砂糖まるめて、花いちもんめ、黒砂糖まるめて、花いちもんめ、みよちゃんとりたい、花いちもんめ、勝ってうれしい、花いちもんめ、負けてくやしい花いちもんめ。	不明	記載なし
	（上山市）	―	［類歌］勝ってうれしい、花いちもんめ、負けてくやしい、花いちもんめ、チャンチャン坊主、あの子がほしい、あの子ってだあれ、隣のだれかさん、ちょっとおいで、隣のだれかさん、ちょっとおいで。	不明	記載なし
	（新庄市）	―	［類歌］ふるさともとめて、花いちもんめ、ふるさともとめて、花いちもんめ、勝ってうれしや、花いちもんめ、負けてくやしや、花いちもんめ、隣のおばさん、ちょっとおいで、鬼がこわくて行かれない、お釜かぶって、ちょっとおいで、それでもこわくて行かれない、あの子がほしい、あの子じゃわからん、この子がほしい、この子じゃわからん、みよさんばほしい、みよさんばほしい。	不明	記載なし
5	栃木 （宇都宮市宿郷町）	小林芳夫 （昭和2年） 小林芳夫	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「あの子がほしい」 B「あの子じゃわからん」 A「ちょっと見たらば　ミヨちゃんがほしい」 B「ちょっと見たらば　トメちゃんがほしい」 A「ミヨちゃんとまとめて　花いちもんめ」 B「トメちゃんとまとめて　花いちもんめ」 （ミヨちゃんとトメちゃんが引っぱりっこする） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん 引っ張り合い	二つのグループに分かれ、横一列に並んで手をつなぎ向かい合って、ジャンケンで勝った方のA組が先に前進しながら、「勝ってうれしい……」をうたい、ピョンと片足を上げる。負けたB組はそれに従って後退するが、次にはB組が「負けて悔しい……」をうたいながら前進し、A組は後退する。そこで「あの子がほしい」以下の問答があり、指名された二人が出て、”引っ張り合い”や”ジャンケン”をして負けた方がもらわれていく。全員とられた組が負けということになる。
	（河内郡南河内町）	不明 （不明） 小林芳夫	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「となりのおばさん　ちょいと来ておくれ」 B「鬼がこわくって　いかれない」 A「おふとんかぶって　ちょいと来ておくれ」 B「おふとんびりびり　行かれない」 A「おかまかぶって　ちょいと来ておくれ」 B「おかま重くて　行かれない」 A「あの子が欲しい」 B「あの子じゃ　わからん」 A「この子が欲しい」 B「この子じゃ　わからん」 A「相談しましょ」 B「そうしましょ」	じゃんけん 引っ張り合い	歌の終わりで、両組がそれぞれ一人ずつ出し合い”ジャンケン”や”引っ張り合い”で勝った方がその子をもらう。遊び方は前曲と同様である。

	（芳賀郡二宮町）	物部中学校 生徒 （不明） 宮田日出子	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「たんすながもち　どの子がほしい」 B「あの子がほしい」 A「あの子じゃ　わからん」 B「その子がほしい」 A「その子じゃ　わからん」 B「この子がほしい」 A「この子じゃ　わからん」 B「ハナちゃんが　ほしい」 A「ミヨちゃんが　ほしい」	じゃんけん	最後に両名がジャンケンをして負けた方がもらわれていく。宇都宮のものとくらべ旋律に特色がある。
6	茨城 （那珂郡那珂町）	会沢貞子 （明治40年） 今瀬文也	勝ってうれしい　花いちもんめ 負けてくやしい　花いちもんめ 故郷たずねて　花いちもんめ ミヨさんとりたい　花いちもんめ	じゃんけん 引っ張り合い 片足けんけん相撲	「さくらさくら」の歌などによって組み分けられた二組によって遊ばれる「子もらい遊び」の歌。 二組が横一列になり、手をつないで向かい合い、ジャンケンに勝った組が、この歌をうたいながら三歩前進してピョンと片足をあげる。もう一方の組はそれにつれて後退する。次に負けた組が同様に前進して、双方がもらいたい子を指名する。指名された二人は、中央の線を引いてある所へ出てきて、手をにぎり合って引っぱりっこをするか、ジャンケンをして負けたものがもらわれていく。地方によっては、中央に円を書いて、その中で「ネコがネズミとって、イタチが追いかけて」とうたいながら片足ケンケンで押し相撲をするところもある。そして、一人もいなくなった方が負けになる。
	（東茨城郡茨城町）	―	［類歌］勝ってうれしい花いちもんめ、負けてくやしい花いちもんめ、座ぶとんかぶってちょっとおいで、座ぶとんないから行かれない、ざるをかぶってちょっとおいで、ざるがないから行かれない、鉄びんかぶってちょっとおいで、鉄びんないから行かれない、あの子がほしい、あの子じゃわからん、この子がほしい、この子じゃわからん、〇〇ちゃんがほしい、××ちゃんがほしい。	不明	記載なし
	（那珂湊市）	―	［類歌］ふるさとまとめて花いちもんめ、〇〇ちゃんとりたい花いちもんめ、勝ってうれしい花いちもんめ、負けてくやしい花いちもんめ。	不明	記載なし
7	東京 （新宿区西新宿）	淀橋第二 小学校児童 （不明） 尾原昭夫	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「となりのおばさん　ちょいと来ておくれ」 B「鬼がこわくて　行かれない」 A「おかまかぶって　ちょいと来ておくれ」 B「おかま底ぬけ　行かれない」 A「ふとんかぶって　ちょいと来ておくれ」 B「ふとんビリビリ　行かれない」 A「それはよかよか　どの子がほしい」 B「あの子が　ほしい」 A「あの子じゃ　わからん」 B「この子が　ほしい」 A「この子じゃ　わからん」 B「まるくなって　相談しよう」…… A「〇〇ちゃんが　ほしい」 B「□□ちゃんが　ほしい」 （指名された子前に出る）「ジャンケン　ポイ」	じゃんけん	A・B同人数の二組に分かれ、向かい合って横隊になる。最初はジャンケンで勝った方（A）からうたいながら前進しBは後退する。すぐBがうたいながら前進し、Aは後退する。このように前進・後退を交互に続けながら歌問答をし、最後は両組から指名された子のジャンケンで勝負をきめ、勝った方の組は負けた子をもらう。全員いなくなった組が負けであるが、適当な時に切って、人数の多い方を勝ちとしてもよい。 八王子市北野町では、この遊びに入る前に「さくらさくら」の歌で＜くぐり遊び＞をして組分けをする。つまり「天神様の細道」のように二人が手を組んで門をつくり、他の子は手をつないで輪になりその門をくぐる。「いざやいざや、見わたすかぎり、かすみか雲か、朝日ににおう、いざやいざや、ものともに」などとうたって終わりに門をおろし一人つかまえると、「みかんが好きか、リンゴが好きか」とたずね、その答えによって＜みかん組＞＜りんご組＞と分けていく。全員が二組に分かれたところで「花いちもんめ」に移行するのである。
	（板橋区坂下）	志村第六 小学校児童 （不明） 尾原昭夫	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 B「たんす長持　どなたがほしい」 A「あの子がほしい」　B「あの子じゃわからん」 A「この子がほしい」　B「この子じゃわからん」 A「兵隊さんがほしい」 B「兵隊さんじゃわからん」 A「キューピーさんがほしい」 B「キューピーさんじゃわからん」 A「お嫁さんがほしい」 B「お嫁さんじゃわからん」 A「お婿さんがほしい」 B「お婿さんじゃわからん」 A「相談しよう」…… A「〇〇ちゃんがほしい」 B「□□ちゃんがほしい」 （指名された子前に出る） 「ジャンケンポン」	じゃんけん	前（新宿区西新宿）に同じ。
	（清瀬市元町）	―	［類歌］…ふるさとまとめて花いちもんめ（反復）、ちょうちんぶっころがして大やけど（反復）、あの子がほしい、あの子じゃわからん、この子がほしい、この子じゃわからん、……	不明	記載なし

8	埼玉 （浦和市常盤）	長須キヨ （大正15年） 小野寺節子	AB「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 A　「あの子がほしい」 B　「あの子じゃわからん」 A　「この子がほしい」 B　「この子じゃわからん」 A　「まるくなって　決めよ」 A　「〇〇ちゃんがほしい」 AB「ジャンケンポン」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	子供たちは二組に分かれ、それぞれ手をつないで列をつくり、向かい合う。そして歌に合わせて相手方へ押し進み、ポンと片足を出す。「まるくなって決めよ」でA組は輪になり、どの子をもらうか相談する。そして「〇〇ちゃんがほしい」とうたうと両組の代表が出てジャンケンをする。A組が勝てば指名した子をもらうことができる。またはじめからくり返す。子供たちは好きな子を選んだり、自分が選ばれたりするのを楽しみに遊ぶのである。
9	群馬 （新田郡藪塚本町）	藪塚本町 中学校生徒 （不明） 酒井正保	勝ってうれしい　花いちもんめ 負けてくやしい　花いちもんめ 隣のおばさん　ちょっと来ておくれ 犬がこわくて　行けられない それならわたしが　お迎えに それでも　こわい それがそうなら　どの子がほしい あの子が　ほしい あの子じゃ　わからん この子が　ほしい この子じゃ　わからん	じゃんけん 引っ張り合い	二組に分かれ、一列横隊で向かい合い、歌に合わせて一組が三歩前進して片足をピョンとあげる。他の組はそれにつれて三歩後退。これを繰り返し、最後に指名された子が前に出て、ジャンケンや引き合いをして、負けた子がもらわれていく。この歌の場合、「この子じゃわからん」のあとに、「〇〇ちゃんがほしい」「××ちゃんがほしい」の詞章が抜けているようだ。
10	新潟 （上越市高田）	金井昭 （昭和2年） 蜂村辰典	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「隣のおばさん　ちょっとおいで」 B「鬼がこわくて　いかれない」 A「かまかぶって　ちょっとおいで」 B「おかま底ぬけ　いかれない」 A「座ぶとんかぶって　ちょっとおいで」 B「座ぶとんボロボロ　いかれない」 A「あの子が　ほしい」 B「あの子じゃ　わからん」 A「この子が　ほしい」 B「この子じゃ　わからん」 A「相談しましょ」 B「そうしましょ」（両組それぞれ相談） A「きまった　ハナさんがほしい」 B「ミヨさんがほしい」 AB「ジャンケンポン」	じゃんけん	AB二組にわかれ、向かい合って遊ぶ集団遊びである。それぞれの組は横一列になり、肩を組むか手をつないで向かい合う。はじめに代表が出てジャンケンをし、勝った組から、この歌をうたいながら前進する。負けた組はそれにつれて後退する。各フレーズの終わりのところではAB両組とも片足をあげて拍子をとる。歌の終わりで、双方から指名された子が出てジャンケンをし、負けた子は相手方へもらわれていく。これを繰り返して、人数の多くなった方の組が勝ちとなる。時には、最後の一人まで勝負をあらそうこともある。
11	長野 （南佐久郡川上村）	川上第一 小学校 （不明） 小宮山利三	故郷（ふるさと）もとめて　花いちもんめ みよちゃんとりたい　花いちもんめ 勝ったら嬉しい　花いちもんめ 負けたらくやしい　花いちもんめ 向かいの誰かさん　ちょっとおいで 向かいの誰かさん　ちょっとおいで	引っ張り合い	二組に分かれた子供たちが向かい合って一列に並び、歌につれて前進後退をくり返し、指名された者同士が片手で引き合い、負けた子がもらわれていく。
12	山梨 （中巨摩郡白根町）	山口美穂 （昭和33年） 沢登芙美子	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「たんす長持　どの子がほしい」 B「ちょいと見てあの子」 A「名は何と申す」 B「ハナちゃんと申す」 A「何で行くの」 B「花嫁さんでおいで」	じゃんけん	まず、二組に分かれ横一列になって手をつなぎ、互いに向かい合う。各組の代表がジャンケンをして、勝った方から先にうたいながら前進する。相手組は同時に後退。歌問答とともに前進、後退を続け、もらいたい子を指名する。この曲では指名された子が指定された仕草で相手の組へ行く。この遊びのおもしろさの一つは、最後の部分が「花嫁さん」の他、「お猿さん」「お馬さん」「兵隊さん」などになる即興性であろう。
	（甲府市天神町）	沢登友美 （昭和47年） 沢登芙美子	A「となりのおばさん　ちょっと来ておくれ」 B「鬼がいるから行けれない」 A「ふとんかぶって　ちょっと来ておくれ」 B「ふとんぼろぼろ行けれない」 A「あの子がほしい」 B「この子がほしい」 A「相談しよう」 B「そうしよう」 AB「決まった」 A「ハナちゃんがほしい」 B「ミヨちょうんがほしい」 AB「ジャンケンポン」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	この曲では、誰を貰いたいか途中で相談する。指名された子二人が出てジャンケン（時には引っぱり合い）をして、負けた子が貰われていく。これを繰り返し、子供をたくさん取った組が勝ち。

	（東八代郡八代町）	八代中学校 生徒 （不明） 沢登芙美子	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「たんす長持　どの子がほしい」 A「たんす長持どなたがほしい」 B「ちょいと見てあの子」 A「あのこじゃわからん　名は何と申す」 B「ハナちゃんと申す」 A「何で行くの」 B「お嫁さんでおいで（1）」 AB「ジャンケンポン」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 ［注］（1）「ひっぱりっこで」とも	じゃんけん 引っ張り合い	記載なし
13	静岡 （静岡市末広町）	渡辺貴子 （昭和31年） 堀場宗泰	A「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 B「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 A「ごみ箱でんぐり返して　花いちもんめ」 B「鼻くそまるめて　花いちもんめ」 A「下駄箱でんぐり返して　花いちもんめ」 B「富士山またいで　花いちもんめ」 A「あの子が欲しい」 B「あの子じゃわからん」 A「この子が欲しい」 B「この子じゃわからん」 A「相談しよう」 B「そうしよう」 A「はなちゃんが欲しい」 B「みよちゃんが欲しい」 （ここで二人出てジャンケン）	じゃんけん 引っ張り合い	二組に分かれ、向かい合って横一列になり、交互唱で一組が前進すれば相手の組は後退。これをくりかえし、最後にジャンケンをして負けた子がもらわれていく。またジャンケンでなく、引き合いをする場合もある。
	（富士宮市小泉）	須山富枝 （昭和30年） 堀場宗泰	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「隣のおばさん　ちょっとおいで」 B「鬼がこわくて　行かれない」 A「お釜かぶって　ちょっとおいで」 B「底がないから　行かれない」 A「布団かぶって　ちょっとおいで」 B「布団ボロボロ　行かれない」 A「ぞうきんかぶって　ちょっとおいで」 B「ぞうきんビリビリ　行かれない」 A「それはそうだが　どの子が欲しい」	じゃんけん 引っ張り合い	前出の静岡市末広町と同様にして遊んだり、もらわれていくときに、いろいろなゼスチャーをしていく場合もある。
14	富山 （富山市砂町）	金山美代志 （大正3年） 黒坂富治	勝ってうれしや　花いちもんめ 負けてくやしや　花いちもんめ となりのおばさん　ちょっとおいで 鬼がこわくて　行けません お釜をかぶって　ちょっとおいで それでもこわくて　行けません たんす長持　どちらがほしい ジャンケンポン　あちらがほしい こちらで　わからん 勝ってうれしい　花いちもんめ	じゃんけん 引っ張り合い	一般的な遊び方として、二組に分かれた子が向かい合って横一列になって手をつなぎ、交互唱また斉唱で一方の組が三歩前進してピョンと片足をあげる。他の組はそれにつれて後退する。これを繰り返し、終わりにジャンケンや引き合いをして負けた子がもらわれていく。そして勝った方が「勝ってうれしいや」をうたう。遊びを繰り返し、子を全部取った方が勝ち。
	（新湊市海老江）	荒井田鶴 （明治43年） 黒坂富治	勝ってうれしや　花いちもんめ 負けてくやしや　花いちもんめ 向かいの誰かさん　ちょっとおいで となりのおばさん　ちょっとおいで	じゃんけん 引っ張り合い	同上
	福井 （福井市江上町）	大安寺 小中学校 児童生徒 （不明） 望月敬明	全員「勝ってうれしい　花いちもんめ 負けてくやしい　花いちもんめ たんす長持　どなたがほしい」 A組「あの子が　ほしい」 B組「あの子じゃ　わからん」 A　「この子が　ほしい」 B　「この子じゃ　わからん」 全員「相談しましょ　そうしましょ」 A　「ミヨさんが　ほしい」 B　「ハナさんが　ほしい」 全員「なにのっていくの ジャンケンでおいで」	じゃんけん	記載なし

15	（丹生郡宮崎村）	大柳智永子 （昭和18年） 田中幸一	全員「たんす長持　どの子がほしい」 A組「あの子が　ほしい」 B組「あの子じゃ　わからん」 A　「この子が　ほしい」 B　「この子じゃ　わからん」 A　「ミヨちゃんが　ほしい」 B　「エミちゃんが　ほしい」 全員「どうしましょ（ヒソヒソ）」 （二人が前に出てジャンケン） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 全員「隣のおばさん　ちょっとおいで 鬼が恐くて　行かれません」	じゃんけん	記載なし
	（武生市国府）	武生東小学校 児童 （不明） 望月敬明	全員「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 A組「あの子が　ほしい」 B組「あの子じゃ　わからん」 全員「相談しましょ　そうしましょ きまった」 A　「ミヨちゃんが　ほしい」 B　「キミちゃんが　ほしい」 二人「ジャンケンもってホイ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」	じゃんけん	記載なし
16	愛知 （名古屋市天白区）	今井庄松 （不明） 服部勇次	A「隣のおばさん　ちょっとおいで」 B「鬼がおるから　よう行かん」 A「お釜かぶって　ちょっとおいで」 B「それでもこわいで　よう行かん」 A「あの子がほしい」 B「あの子じゃわからん」 A「相談しましょ」 B「そうしましょ」 A「花ちゃんがほしい」 B「美代ちゃんがほしい」 （二人中央に出てジャンケン） 勝「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	二組に分かれ、手をつなぎ横一列になって向かい合う。歌のかけ合いをしながら、うたっている組は前に進み、相手方は後退する。途中で指名された二人が前に出てジャンケンで勝負し、負けた子はもらわれていく。勝った組は「勝ってうれしい……」とうたい、もう一方は「負けてくやしい……」とうたう。この遊びをくり返し、全員がもらわれたり、遊びをやめたときの人数で勝負が決まる。
	（名古屋市）	―	［類歌］勝ってうれしい花いちもんめ、負けてくやしい花いちもんめ、〇〇ちゃんをとりたい花いちもんめ、□□ちゃんをとりたい花いちもんめ。	不明	記載なし
17	岐阜 （益田郡萩原町）	今井捷子 （昭和13年） 久野壽彦	A「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 あの子が欲しい」 B「この子が欲しい」 （ジャンケンまたは引っぱりっこをする） A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん 引っ張り合い	これら二種の遊び方は、歌詞の変化も含めて細部ではかなり多様であるが、基本的なものがある。まず子供たちは大体同人数でA・B二組に分かれる。このとき、「通らんせ」の方法で分かれることもある。次に両組は横一列になって向かい合い、交互にうたいながら前進し相手の組は後退する。最後に指名された子が前に出てジャンケンや引っぱりっこをして、負けた子は勝った組にもらわれていく。 なお根尾村の歌詞には鬼が登場するが、それは江戸時代の古い遊び方の名残で、AB両組の中間に鬼がいて、AからBに誰か一人が行く場合に、鬼がそれを捕まえようとする一種の鬼遊びであった。ここにあげた二種は、現在も遊ばれている比較的新しいもので鬼遊びの要素はなくなっている。また類歌にあげたものは、勝ち負けでなく、ゼスチャーで子のやりとりをするものである。
	（本巣郡根尾村）	長嶺小学校 児童 （不明） 久野壽彦	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「隣のおばさん　ちょっとおいで」 B「鬼が出るから　よう行かん」 A「鉄砲かついで　ちょっとおいで」 B「鉄砲ないから　よう行かん」 A「お釜かついで　ちょっとおいで」 B「お釜ないから　よう行かん」 A「あの子が欲しや」 B「あの子じゃわからん」 A「この子が欲しや」 B「この子じゃわからん」 A「相談しましょ」 B「そうしましょ」（相談する） A「なおちゃんが欲しや」 B「はなちゃんが欲しや」（ジャンケンをする）	じゃんけん	
	（大野郡久々野町）	―	［類歌］A「たーんすながもちあのこがほしい」B「あのこじゃわからん」A「このこがほしい」B「このこじゃわからん」A「〇〇さんがほしい」B「なんになってくるの」B「ぶたになってくるの」。	ジェスチャー	勝ち負けでなく、ゼスチャーで子のやりとりをして遊ぶものである。
	三重 （上野市東丸之内）	小川浩子 （不明） 東仁己	曲名《花いけもんめ》 A「はなちゃんとまとめて　花いけもんめ（1）」 B「ゆりちゃんとまとめて　花いけもんめ」 （ここで二人がひっぱり合い） （負けた子は勝った方へもらわれていく） 勝組「勝ったらうれし　花いけもんめ」 負組「負けたらかなし（2）　花いけもんめ」 〔注〕（1）「花いけもんめ」は「花いちもんめ（花一匁）」の転訛であろう。（2）「くやし」とも。	引っ張り合い	AB組とも同人数で一列になって向かい合い、二組の順番を決めてから、まずA組がうたいながら前進し、B組はそれにつれて後退する。次にB組が前進、A組は後退する。指名された二人が前に出て引っ張り合いをし、負けた子は勝ち組にもらわれていく。これを繰り返し、全員いなくなった組が負けとなる。時には何回か遊んだ時点で人数の多い組を勝ちとすることもある。

18	（上野市東丸之内）	小川浩子 稲増敦子 稲増百合子 森島宏美 汐辺三津保 （不明） 東仁己	A「たんす長持　どなたがほしい」 B「ゆりちゃんが　ほしい」 A「どうして行くの」 B「片手あげておいで」 B「たんす長持　どなたがほしい」 A「はなちゃんが　ほしい」 B「どうして行くの」 A「鼻をもっておいで」 （指名された二人が出てジャンケン） （負けた子は注文のゼスチャーを演じながら勝組へ） 勝組「勝ったらうれし　花いちもんめ」 負組「負けたらくやし　花いちもんめ」	じゃんけん 引っ張り合い	遊び方は前曲と同じ。いろいろなゼスチャーがはいり、勝負もジャンケンや引っ張り合いなどいろいろある。
19	和歌山 （東牟婁郡熊野川町小口）	仲本一 （明治42年） 中西包夫	A「うめとさくらを　合わせてみれば」 B「うめの眺めは　ピンコ　シャンコ　シャン」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「たんす長持　どの子がほしい」 B「はなさん　ほしい」 A「みよさん　ほしい」 AB「ジャンケン　サイ」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	遊ぶ子供たちが二組に別れ、横一列になって向かい合う。うたいながら交互に前進と後退をくりかえす。指名された子が二人前に出てジャンケンをし、負けた子が勝った組へもらわれていく。最後は組の人数の多少で勝ち負けを決める。
20	奈良 （吉野郡川上村白屋）	川上第二 小学校児童 （不明） 牧野英三	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「隣のおばさん　ちょっと来ておくれ」 B「鬼がいるから　行かれない」 A「布団かぶって　ちょっと来ておくれ」 B「布団ないから　行かれない」 A「バケツかぶって　ちょっと来ておくれ」 B「バケツそこ抜け　行かれない」 A「ぞうきんかぶって　ちょっと来ておくれ」 B「ぞうきんビリビリ　行かれない」 A「あの子がほしい」 B「この子がほしい」 A「相談しよう」 B「そうしよう」 A「太郎ちゃんがほしい」 B「けい子ちゃんがほしい」 （ジャンケン） 勝「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	数人一組として二組にわかれ、手をつないで横隊になり、三、四メートル間をあけて向かい合う。まずどちらが先にうたうか、ジャンケンなどで順番を決める。 はじめに勝った組から、うたいながら四歩前進、四歩後退。負けた組（B）はそのままで待つ。つぎにB組が四歩前進、四歩後退。以下AB組交互に同じ動作を繰り返す。ついでA組の「あの子がほしい」、B組の「この子がほしい」はそれぞれ交互に二歩前進、二歩後退。「相談しよう」「そうしよう」は双方輪になって相談する。そのあと同じ動作をしながら、欲しい子を伝えあい、指名された二人が出てジャンケン。負けた子は、勝った組にもらわれていく。そして再び遊びを繰り返す。ある程度の年齢差があっても遊びは可能である。
21	京都 （旧京都市域）	川賀世子 （明治44年） 高橋美智子	A「ふるさともとめて　花いちもんめ」 B「ふるさともとめて　花いちもんめ」 A「もんめ　もんめ　花いちもんめ」 B「もんめ　もんめ　花いちもんめ」 A「〇〇ちゃんもとめて　花いちもんめ」 B「××ちゃんもとめて　花いちもんめ」 （勝った組）「勝ってうれしき　花いちもんめ」 （負けた組）「負けてくやしき　花いちもんめ」	引っ張り合い	二組にわかれ、一列横隊に手をつないで向かいあう。歌にあわせて、三歩前へ進んで片足をピョンとあげ、三歩戻る動作を交互にくり返す。そして指名された二人の子供はまん中へ出て、中央にひいた線の上に片足をのせて引っ張り合う。線より足が出た方が負けで、その子は相手の組へとられる。こうして、一方の組が一人残らずとられてしまうか、遊びをやめたときの人数で勝負がきまる。 なお、最初の二組を「くぐり遊び」で分けるときには、「さくらさくら、やよいの空は見渡すかぎり、いざやいざや、もろともに」と、「さくらさくら」の中略した歌をうたったようである。その方法は「通りゃんせ」などと同じように、両手をつないで門をつくっている二人の子供の下を、他の子供がくぐっていき、歌のおわるとき門の子が手をおろし、くぐっている子をつかまえる。そして「梅か桜かどっちえ」とたずね、その答えによって、梅組と桜組に分けた。

22	大阪 （大阪府内各地）	右田伊佐雄 ほか （昭和3年、ほか） 右田伊佐雄	甲組「ふるさと求めて　花一匁」 乙組「ふるさと求めて　花一匁」 甲　「〇〇ちゃん求めて　花一匁」〔甲組相談〕 乙　「△△ちゃん求めて　花一匁」〔乙組相談〕 〔名ざされた子が両組から出て対戦〕 勝ち組「勝ってうれしい (1)　花一匁」 負け組「負けてくやしい (2)　花一匁」 〔注〕（1）「うれしや」とも。（2）「くやしや」とも。	引っ張り合い	まず両組の欲しい子の選定だが、両組が事前に決めておいて歌に入る場合と、八小節めまでうたってから甲組が相談して決めて歌で名ざし、それを聞いて乙組が相談してまた歌で名ざすという、歌中断の形がある。 名ざされた子どうしが中央に引かれた線まで進み出、そこへ片足をつけた姿勢で手で引っぱり合いをし、引きずり込まれれば負けで、相手側の人質になる。捕虜ではなく、将棋の駒同様その組の新戦力となるため、乙組しては甲組が名ざした自軍の子よりも弱そうな甲組の子を名ざして勝ち、軍勢をふやしてゆく策略が必要となるわけである。 また一回戦が終わって次の勝負に入るについても、甲乙組の順序が入れ替わるやり方と、あくまでも勝組が甲となって先に指名する方式の二とおりがあって一定しない。いずれにせよ、くり返していって弱い者から相手側にとられ、最後にたった一人になることがある。だがこれが嫌煙されていた全員中の最強者で、この一人の登場で逆転勝ちとなるというケースもあったものである。
23	兵庫 （神戸市長田区）	高取台中学校 生徒 （不明） 尾原昭夫	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「どの子がほしい」 B「あの子がほしい」 A「あの子じゃわからん」 B「名を言っておくれ」 A「みよちゃんがほしい」 B「どうしていくの」 A「お嫁さんでおいで (1)」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 〔注〕（1）「チンドン屋でおいで」または「ジャンケンでおいで」など。	じゃんけん	二組に分かれ、横一列になって向かい合う。歌に合わせて一組が三歩前進して「ピョン」と片足を上げる。それにつれて他の組は三歩後退する。この動作を繰返し、指名された子がお嫁さんのゼスチュアをしながらもらわれていく。また指名された子が両組から出てジャンケンをして、負けた子がもらわれていく場合もある。
24	岡山 （都窪郡早島町）	森山礼子 （昭和40年） 奥山勝太郎	A組「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 B組「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 A組「となりのおばさん　ちょっとおいで」 B組「鬼がおるから　よう行かん」 A組「お面かぶって　ちょっとおいで」 B組「お面かぶって　まだこわい」 A組「あの子がほしい」 B組「あの子じゃ　わからん」 A組「相談しましょう」 B組「そうしましょう」 （AB組それぞれ相談をする） A組「みよちゃんが　ほしい」 B組「えみちゃんが　ほしい」 （両者が出て引っ張りっこをする） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 （負けた子が相手の組へ行く）	じゃんけん 引っ張り合い	AB二組に分かれて、それぞれ横一列に手をつなぎ、両組は少し間隔をあけて向かい合う。各節交互に、A組からうたいながら前進し、B組はそれにつれて後退する。各節の終わりには、片足を前にあげて拍子をとる。これを繰り返し、相談の所で両組がそれぞれ考えて、相手方の一人を名指す。指名をうけた二人は前に出て引っ張り合いか、ジャンケンをし、負けた者が勝組にもらわれていき、またうたって遊びを続ける。一人もいなくなる組ができることもある。
	（倉敷市）	老松小学校 児童 （不明） 奥山勝太郎	勝ってうれしい　花いちもんめ 負けてくやしい　花いちもんめ ふるさとたずねて　花いちもんめ よっちゃんがとりたい　花いちもんめ みよちゃんがとりたい　花いちもんめ	不明	記載なし
25	島根 （那賀郡三隅町三隅）	田中幸子 （昭和22年） 田中幸雄	A組「花いちもんめ」 B組「花いちもんめ」 A組「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 B組「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 A組「ハナちゃんがほしい」 B組「ミヨちゃんがほしい」 （指名された二人が出てジャンケン） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん 引っ張り合い	二組に分かれた子供たちが横一列になって向かいあい、手をつなぐ。全員でうたいながら一列は前進、他の組はそれにつれて後退する。各節の終わりの部分では軽く足をあげて拍子をとる。両組から相手の組の一人を指名し、指名された二人が前に出てジャンケンか引っ張り合いをして、負けた子が相手の組へ貰われていく。
26	愛媛 （上浮穴郡美川村）	大野洋子 （昭和8年） 岩井正浩	A　「ふるさともとめて　花いちもんめ」 B　「ふるさともとめて　花いちもんめ」 A　「みっちゃんが取りたい　花いちもんめ」 B　「ちこちゃんが取りたい　花いちもんめ」 AB「ジャンケン　チー」 A　「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B　「負けてくやしい　花いちもんめ」 A　「連れて帰って　何食わす」 B　「天から降ってきた　焼きまんじゅう」 A　「それはあんまり　もったいない」 B　「便所のはたの　ぐいみ (1) 食わす」 A　「それはあんまり　こえくさい」 B　「こんこに茶づけ」 A　「それならよかろ」 〔注〕（1）「ぐいみ」はグミ。しゃしゃぶとも。	不明	「子買お子買お」のように問答をくり返して楽しむものと、「子取ろ子取ろ」のようにもらわれる子をきめるときの勝負を楽しむものとがある。ここにあげた「花いちもんめ」の場合、その両方が結合した遊びである。

27	香川 （坂出市寿町）	小浜妙子 （昭和7年） 山崎盾之	AB「ふるさとまとめて（1）　花いちもんめ」 A　「しおりちゃんとりたい　花いちもんめ」 B　「ひびきちゃんとりたい　花いちもんめ」 二人「大阪ジャンケン　負けてもおこらい（2） 　　じい　やん　ほい」 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」 AB「ふるさとまとめて　花いちもんめ」 〔注〕（1）多くは「もとめて」とうたわれている。（2）「負けてもゴメンね」の意。	じゃんけん	最初に全員が二組に分かれ、それぞれ手をつなぎ横一列になって向かい合う。まず両組で「ふるさとまとめて……」とうたい、ABそれぞれ相手の組の子一人を指名する。指名された子同士がジャンケンをし、負けた子は相手の組へもらわれる。どちらかが、残らずとられてしまうと負けである。なお各組は交互にうたいながら前進、後退をくり返すが、この動作も遊びを楽しいものにしている。大阪ジャンケンは負けを勝ちにする所もある。
	（坂出市笠指町）	山崎しおり （昭和27年） 山崎盾之	A　「ふるさともとめて　花いちもんめ」 B　「ふるさともとめて　花いちもんめ」 A　「あの子がほしい」 B　「あの子じゃわからん　名前を言うて」 A　「相談しましょ」 B　「そうしましょ」（輪になって相談する） AB「（セリフ）決まった」 A　「（セリフ）しおりちゃん」 B　「（セリフ）ひびきちゃん」 　（二人がジャンケンをする） 勝組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負組「負けてくやしい　花いちもんめ」	じゃんけん	前出寿町と同じ遊びであるが、「相談しましょ、そうしましょ」のあと、それぞれの組が輪になって誰を指名するかを相談する。
28	高知 （高知市）	不明 （不明） 吉良長幸	A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「ご新造さん（1）　ちょっとおいで」 B「鬼がおるきに（2）　よういかん」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 ［注］（1）「ご新造さん」は「若嫁御」、「鬼」は「姑」を意味する。	じゃんけん 引っ張り合い	遊び方は、船を曳くように引きあったり、じゃんけんで勝負を決めあったりする。
29	福岡 （柳川市）	柳川市柳河 小学校児童 （不明） 江口チエ子	AB「ジャンケンポン」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 A「隣のおばさん　ちょっとおいで」 B「鬼がくるから　こられません」 A「お面かぶって　ちょっとおいで」 B「それでもこわくて　こられません」 A「布団かぶって　ちょっとおいで」 B「布団が破けて　こられません」 A「あの子が　ほしい」 B「あの子じゃ　わからん」 A「人形（にんぎょ）さんが　ほしい」 B「人形さんじゃ　わからん」 A「相談しましょ」 B「そうしましょ」 （A・B組それぞれ集まって相談） A「はなさんが　ほしい」 B「みよさんが　ほしい」 AB「ジャンケンポン」	じゃんけん	子供たちは二組に分かれて、横一列になって手をつないで向かい合う。二組の間は、人数が多いと五メートルほどあける。はじめにジャンケンをして勝った組から、うたいながら前進して最後に片足を大きくあげる。相談したあと、AB両組とも欲しい子の名前をあげ、その二人がジャンケンして、負けた子は勝った方の組へもらわれていく。全員いなくなった組が負け。または遊びを止めたとき、人数の多い方が勝ちである。
	（北九州市小倉）	―	［類歌］ジャンケンポン、勝ってうれしい花いけもんで、隣りの伯母さん一寸（ちょいと）来ておくれ、鬼がこわくて行かれません、お釜を冠（かぶ）って一寸来ておくれ、それでもこわくて行かれません、あの子が欲しい、あの子じゃ判からん、この子が欲しい、この子じゃ判からん、〇〇ちゃんが欲しい。	じゃんけん	記載なし
	（京都郡苅田町）	古西ハヤ子 （昭和5年） 小西ハヤ子	AB「ジャンケンポン」 A「勝ってうれしい　花いちもんめ」 B「負けてくやしい　花いちもんめ」 AB「もんめ　もんめ　花いちもんめ」 A「あの子が　ほしい」 B「あの子じゃ　わからん」 AB「相談しましょ　そうしましょ」 AB「きまった」 A「はなちゃんが　ほしい」 B「みよちゃんが　ほしい」 AB「ジャンケンポン」	じゃんけん	柳川市の花いちもんめと同じ遊び方。
	（八女郡黒木町）	―	［類歌］あの子が欲しい、どの子にしょうか、みかんが好きか、リンゴが好きか、勝ってうれしい花一匁、負けてくやしい花一匁。	不明	記載なし
	（田川郡地方）	―	［類歌］東京めがけて花一匁、大阪めがけて花一匁、あの子がほしい、あの子じゃわからん、この子がほしい、この子じゃわからん、教えてやろか、教えておくれ、花子ちゃんが欲しい。	不明	記載なし

30	大分 （宇佐市長州）	入学正敏 （大正8年） 加藤正人	A　「勝ってうれしや　花いちもんめ」 B　「負けてはがいや　花いちもんめ」 AB「ジャンケンポン　あいこでショ」 B　「あん子が欲しい」 A　「あん子じゃわからん」 B　「こん子が欲しい」 A　「こん子じゃわからん」 A　「選り取り見取り　どん子がいいか」 B　「花ちゃん」 B　「麦飯　味噌のせ（1）」 A　「そんなこっちゃやれん」 B　「米ん飯　鯛のせ」 A　「そんならやろか」 〔注〕（1）「せ」は菜。おかず。	じゃんけん	A・B同人数の二組に分かれ、横一列に手をつないで向かい合う。まずAがうたいながら前進し、Bは後退する。次にBが前進、Aが後退。続いてA・Bの代表がジャンケンをし、勝った組（ここではB）が子をもらう権利を得る。以下、ドラマチックな問答につれて交互に前進・後退を続け、最後にA組から一人を連れ帰り、第一ラウンドは終了となる。次の回のうたい出しは子をもらった組（B）からである。これを繰り返して、一人残らずもらわれてしまうか、または遊びをやめたときの人数が少ない方が負けということになる。
31	佐賀 （佐賀市寺町）	石橋弥作 （明治16年） 船津静枝	ジャン　ケン　ポン 勝ってうれしい花いちもんめ 負けてくやしい花いちもんめ ハナさんがほしい　ミヨさんがほしい ジャン　ケン　ポン	じゃんけん	歌の最後でジャンケンをして、自分の好きな人を選ぶ。人選び歌。
32	鹿児島 （薩摩郡東郷町）	不明 （不明） 久保けんお	勝組「花いちもんめ」 負組「花いちもんめ」 勝　「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負　「負けてくやしい　花いちもんめ」 勝　「あの子がほしい」 負　「あの子じゃわからん」 勝　「花子さんがほしい」 負　「なんになって来るの」 勝　「ちょうちょになっておいで」 〔花子ちょうちょの真似をして勝ち組へ行く〕 勝　「勝ってうれしい　花いちもんめ」 負　「負けてくやしい　花いちもんめ」	不明（ジェスチャー）	両組向かい合って、一方がうたいながら前進、相手方は後退する。これをくり返し、最後は一人の子が、ちょうちょ（指定された）の真似をしてもらわれていく。何かのゲームで勝負がついてから、この遊びに入るわけだが、この遊びの中で勝負をつける次の薩摩町永野の歌の形もある。 「花いちもんめ」の組み分けに、くぐり遊び「ちょっと通してくだしゃんせ」「どんどこ通れば」「さくらさくら」を用いることがある。親二人が向き合って片手（種子島は両手）をさしのべて門を作る。みんなはタテ一列になり、うたいながら門をくぐる。歌の最後の一拍の時門をくぐる者は、親からポンと背中をたたかれ（種子島では両手の門を子にかぶせる）、そこで親の質問に答える。親と子の問答は耳打ちでなされ、他の者は聞かれない。親は「海と桜はどっちがよい」とか「山と海は」などと聞き、全員を二組（たとえば梅組と桜組）に分ける。
	（薩摩郡薩摩町永野）	不明 （不明） 久保けんお	A組「負けてくやしい　花いちもんめ」 B組「勝ってうれしい　花いちもんめ」 A　「誰がほしい　花いちもんめ」 B　「〇〇ちゃんがほしい　花いちもんめ」 A　「△△ちゃんがほしい　花いちもんめ」 〔ここで〇と△が出て〕 AB「ジャンケンポン」	じゃんけん	記載なし

５．「はないちもんめ」がもたらす教育的な効果・遊びの魅力

「はないちもんめ」は、年齢を問わずみんなで一緒に遊べ、年上の子どもが自然に年下の子どもの手を引いたり、遊びのルールを示したり、協調性や仲間意識をも育むものであった。このような時間を共有することにより、地域の子どもたち同士で仲間意識が芽生えてくることも「はないちもんめ」の遊びの魅力のひとつである。「はないちもんめ」が現代まで人気がある遊びなのは、単に遊びが楽しいだけではなく、それを仲間と共有することにより仲間意識が芽生え、子どもたちの間に「絆」が生まれるためである。「はないちもんめ」は、各地の文化や言葉（方言）、時代の流行や社会背景等に敏感に反応して変化し、世代を超えて受け継がれている遊び歌である。たとえば静岡では、日本一の山と親しまれている富士山を歌詞に取り入れ「富士山またいで　花いちもんめ」と歌っており、その即興性が理解できる。

「はないちもんめ」は、手を繋いで一緒に歌うことで自分の居場所があるという安心感や所属感、じゃんけんや引っぱりあいで勝負する際の仲間の応援で味わう一体感が、現代まで途切れることなく伝承されている理由のひとつではなかろうか。大人数でなければ楽しめないこの遊びは、年齢を問わないコミュニケーションを育み、日本の文化が感じ取れる遊びであると言えるであろう。

おわりに

「はないちもんめ」を通して、日本の伝承的な遊び歌には、その土地の自然や文化、歴史、産物、生業等が反映され創りかえられながら伝播する特徴があることを理解することができた。また同じ地域であっても、世代によって異なる歌詞が歌われていることもあり、時代の流行に即した表現を子どもたちが敏感に感知し、取り入れていった経過も読み取れた。

「はないちもんめ」は、地域性や構成員の条件によってアレンジが加えられ、現代まで伝承された日本の遊び歌である。その時代時代の子どもたちが、「こうしたらもっと遊びが楽しくなるかもしれない」「こうしたら皆が喧嘩をせずに遊べるかもしれない」等、自由な発想と工夫が新たな歌詞やルール、リズムを生み出し、現在の《はないちもんめ》は存在しているといえる。メンバーが参加しやすいように臨機応変にルールが工夫され、より楽しいものにつくりかえられて現代に伝承されている「はないちもんめ」は、自然と「創造と改良」が行われており、そこには子どもの発想と創造性の豊かさが垣間見られた。自ら遊びを創りだしたり、あるいは元ある遊びを変えて表現することは、子どもたち同士のコミュニケーションを育んでいくという観点からも意義があることであろう。

筆者が勤務する大学の講義において、幼少時に遊んだ「はないちもんめ」について学生同士で紹介しあう時間を設けたことがある。同年代でも地区が離れていると歌詞や旋律が大きく異なっていたり、遊び方についても様々なヴァリエーションがあることを知ると、学生は驚きを示していた。また受講生の中には「ちょうど昨日学童保育で、はないちもんめを子どもたちと遊びました。はないちもんめは、子どもたちの大好きな遊びのひとつです」と発表する学生もおり、現代でも色褪せ

ることなく継承されている日本の代表的な伝承遊びであることもわかった。

本稿では，幼い頃多くの人が遊んだ経験を持つ日本の伝承遊び「はないちもんめ」について研究ノートとして整理したものである。不備な点が多く残されていることは否めないが、今後さらに調査を進めていきたい。

【引用文献】

『日本わらべ歌全集』全 27 巻、柳原書店、1979-1992

【附記】

本稿は、前川財団による 2021 年度家庭教育研究及び実践助成「『はないちもんめ』に関する研究　－歌問答・旋律・遊びの比較を通して－」を受けて実施した研究成果の一部である。

【脚注】

1　「はないちもんめ」の表記に関しては、「はないちもんめ」「花いちもんめ」「花一匁」等、さまざまな表記が見つけられるが、本研究では「はないちもんめ」と記載を統一する。なお、引用文献・参考文献の記述に関しては、そのままに記載する。

2　本田和子は「『花一匁』考」において、江戸時代の代表的な伝承遊びが記録されている『嬉遊笑覧』『守貞漫稿』や明治時代の『日本児童遊戯集』に「花一匁」が採録されていないため、大正期以降の比較的新しい遊びと見なされてきたのではなかろうかと推察し、しかしこの遊びの主要因である「かけ合い」「指名」「交換」の構図をみると、その型はさらに遠く深く探ることができると「歌垣」との可能性を指摘している。なお、「はないちもんめ」の初出は、昭和 10 年発行『続日本童謡民謡曲集』に見つけられる。

3　宮城、秋田、福島、千葉、石川、神奈川、滋賀、徳島、広島、山口、鳥取、長崎、熊本、宮崎、沖縄における「はないちもんめ」の伝承遊び実態について各県立図書館に照会し、昭和時代に全県で「はないちもんめ」の伝承遊びがされていた資料の確認はできている（2021.3-4 に照会実施）。なお、三重県では《花いけもんめ》の曲名で収録されているが、《花いちもんめ》の転訛であろうと［注］が付けられていたため、表 1 に加えている。

4　高橋美智子『京都のわらべ歌』柳原書店、1979、p.187

5　『遊びの大事典』東京書籍，1989、 p.631